

平成 28 年 9 月 吉日

各 位

OATアグリオ株式会社

## 「ピラクロエースフロアブル」適用拡大のご案内

拝啓

時下ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。平素は格別のお引き立てをいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、かねてよりご協力を賜りました除草剤「ピラクロエースフロアブル」が平成 28 年 9 月 7 日付けにて適用拡大登録となりましたので、下記のとおりご案内申し上げます。

今後とも、皆様のご指導ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

敬具

記

商品名	:	ピラクロエースフロアブル (第 2 2 0 9 1 号)	
有効成分・%	:	ピラクロニル・・・・・・・・・・・・・・・・	3.6%
		ベンゾビシクロン・・・・・・・・・・・・・・・・	4.0%
		ベンゾフェナップ・・・・・・・・・・・・・・・・	14.5%

登録年月日 : 平成 28 年 9 月 7 日 (登録拡大)

<1>適用内容の変更:

- ・ 適用雑草名の追加: シズイ
- ・ 使用方法に「水口施用」を追加

【変更後の適用表】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法
移植 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ ミズガヤツリ ヘラオモダカ オモダカ クログワイ エゾノサヤヌカグサ コウキヤガラ <u>シズイ</u> アオミドロ・藻類による 表層はく離	移植時	500ml /10a	1回	田植同時 散布機で 施用
		移植直後～ ノビエ2.5葉期 ただし、 移植後30日まで			原液 湛水 散布 又は <u>水口 施用</u>
直播 水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ヒルムシロ ミズガヤツリ ヘラオモダカ	湛水直播の 稲1葉期～ ノビエ2.5葉期 ただし、 収穫90日前まで			原液 湛水 散布

ピラクロニルを含む 農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む 農薬の総使用回数	ベンゾフェナップを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	2回以内

## <2>注意事項等の変更

### 使用上の注意事項

#### 【変更後】

- (1) 使用量に合わせ秤量し、使い切ること。
- (2) 使用前に容器を軽く振ること。
- (3) 本剤は雑草の発生前から発生始期に有効なので、ノビエの2.5葉期までに時期を失ないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布するように注意すること。ホタルイ、ウリカワ、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、ミズガヤツリは移植水稻では3葉期まで、直播水稻では2葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。また、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生期間が長く、遅い発生のもので十分な効果を示さない場合があるので、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用すること。シズイは、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせで使用すること。
- (4) 下記のような条件では、初期の生育抑制やクロロシスを生じるおそれがあるので、使用を避けること。

特に、これらの条件が重なる場合は、初期生育が著しく抑制されるので注意すること。

  - ①異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
  - ②活着遅延を生じるような異常低温の時
  - ③砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深 2cm/日以上)
  - ④軟弱な苗を移植した水田
  - ⑤極端な浅植または極端な深水になった水田
  - ⑥植え穴の戻りが悪い水田
- (5) 本剤は水の出入りを止めて湛水状態で水田全面にゆきわたるように散布すること。本剤散布後、少なくとも3~4日間は通常の湛水状態を保ち、田面を露出させたり、水を切らしたりしないようにし、また、散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。
- (6) 水口施用の場合は、入水時に本剤を水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させる。処理後田面水が通常の湛水状態(湛水深3~5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があふれ出ないように注意すること。
- (7) 苗の植付けが均一となるように、代かき、均平化及び植付作業はていねいに行うこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいに行うこと。
- (8) 稲の根が露出する条件では薬害を生じるおそれがあるので使用しないこと。
- (9) 本剤は、その殺草特性から、いぐさ、れんこん、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意すること。
- (10) 本剤が稲体に多量に付着すると薬害が生じるおそれがあるので、稲体に重複してかからないよう注意すること。
- (11) いぐさ栽培予定の水田では使用しないこと。
- (12) 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにすること。
- (13) 本剤散布後の田面水を他作物に灌水しないこと。
- (14) 容器等は圃場などに放置せず、適切に処理すること。
- (15) 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。